資料5

鴨川の現況把握等について

鴨川の現況把握等のための調査の実施

委員会での指摘

- 河川の基礎データとしての測量（横断測量）データの把握、蓄積に努めることが必要
- 蓄積してきたデータから、環境への影響の傾向などを把握できるようにすることが必要
- 施策検討立案をしていくためには利用者や来訪者のニーズや実態などについて知っておくことも重要

１　縦横断測量

平成26年度　鴨川（桂川合流点～柊野堰堤）　の測量を実施
平成27年度　高野川（鴨川合流部～）の測量を予定

２　継続調査

中州管理に伴う経過観察
①植物・底生生物調査、②水制工モニタリング、③定点写真撮影

３　利用実態調査

年間総利用者数の算出（近年施策の効果を検証）
アンケート調査を実施しニーズを把握する

〇中州・寄州の管理

- 定点写真から定性的な傾向を把握するとともに、横断測量成果や施工時の測量結果を使って堆積・流出の定量データを整理、蓄積し評価に努める
- 植生物等は、今までの蓄積データではまだ評価が難しいと考えているが、種類数・総個体数の変化のほか生物種の出現・消滅結果等から、施工や出水による環境への影響を、専門家への相談・助言を求めながら評価に努める

〇今後の施策検討

- 利用実態調査等の結果から、実施施策の評価を行うとともに、求められているニーズ等の実現可能性を検討する

鴨川の主な土砂動態等について

堆積しやすいと思われる場所の施工後経過観察結果を踏まえた考察

⑤庄田橋下流

特徴・傾向
上流からの土砂供給が多い 大きな出水で表土流失 中規模出水まででは影響が小

④志久呂橋上下流

特徴・傾向
上流からの土砂供給が多い 大きな出水で大きく流失 中規模出水で中州が移動

⑦松ヶ崎橋下流

特徴・傾向
比較的堆積しやすい場所 大きな出水で表土流失

③北大路橋下流

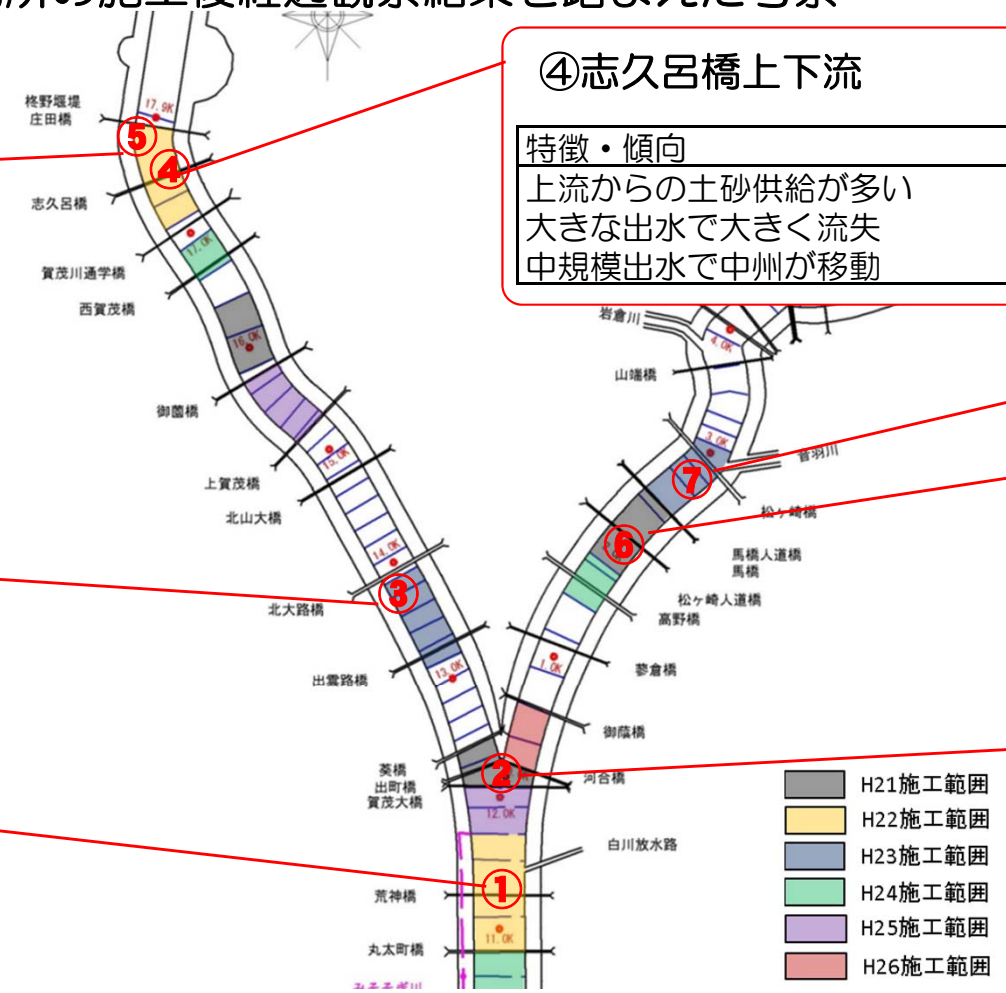
特徴・傾向
落差工下で堆積しやすい 大きな出水で流失、礫州化する 中規模出水では礫が堆積

⑥松ヶ崎人道橋上下流

特徴・傾向
比較的堆積しやすい場所 大きな出水で表土流失 中規模出水まででは影響が小

①荒神橋上下流

特徴・傾向
比較的堆積しやすい場所 大きな出水では流失、礫州化する 中規模出水では礫が堆積



②賀茂大橋上流

特徴・傾向
出水時を含め非常に堆積しやすい 大きな出水で堆積（礫州化）が顕著 中規模出水でも礫の堆積が多い

主な考察結果等

賀茂大橋上流

- 出水に際して大きく土砂が堆積する場所である。大きな出水後に中州寄州管理が必要になる。

その他箇所

- 大きな出水では土砂が移動・流失し、中規模出水では堆積する傾向がみられる。
- 大きな出水が無い限り、継続的に中州寄州管理をしていく必要があると考えられる。

※引き続きモニタリングを実施し、鴨川の土砂動態等の把握に努める